

# 【特集】 思いを伝える

町制施行 55 周年記念 平成 30 年度 函南町青少年健全育成大会



7月1日、函南町文化センターで青少年健全育成大会が行われ、町内の小学校5校、中学校2校、高校1校の計8校の代表者が「わたしの主張発表」を行いました。  
わたしの主張発表の内容や社会を明るくするポスター特選作品などを紹介します。

## 廃品回収に行つて



函南小学校 6年  
しおこし 塩越 あのんさん

廃品回収なんてどうしてこんなにも大変なことをするのだろうと思つていました。でも同時に、廃品回収で集めている物に何か共通点があるのかと疑問がわきました。数ヶ月経ち、次の廃品回収の日はその疑問が解消しました。集めている物を見ると、リサイクルできる物だらけだったので。しかし、リサイクルして何のためにするのだろうという新たな疑問が浮かびました。このことがきっかけで、学校のクラブ活動では環境クラブに入りました。そこで勉強して、リデュース、リユース、リサイクルという3つのR、3Rについて知りました。ごみを出すことは、私たちの住んでいる地球の自然や環境の問題につながっていたのです。  
毎日の生活で、どうしてもごみは出てしまいます。そこで役立つのがリサイクルだったので。リサイクルを何のためにやっているか、この時やると気づきました。私めんどくさいと感じながらやってきた廃品回収は、実は私たちの生活にとって、とても大切なことであつたのだと反省しました。  
私は、廃品回収に行つて、自分たちが出しているごみについて知り、自分でできることを考えることができました。今、私にできることは、小さなことばかりですが、地球にある限られた資源を有効に使つていくことは、私たちの豊かな生活につながっていくのだと思います。

## 挑戦



丹那小学校 6年  
わたなべ はるか 渡邊 悠香さん

私は、小さい時から人前に立つことが苦手でした。人前で何かに挑戦して、失敗して笑われることがとても怖かつたのです。教室に貼られていた「挑戦する学び」という文字を見ても、失敗したら笑われるかもしれないし、挑戦なんてしたくないと思つていました。  
ところが、こんな私が運営委員会に入つて学校の中心になつて働くことになりました。人前に立つて失敗して悔しい思いをすることもありましたが、友達があドバイスをくれたり、見守ってくれたりして、嬉しくなりました。  
以前、できなかった逆上がりや、友達のアドバイスのおかげでできるようになつた時の気持ちを思い出しました。そして、これが「挑戦する学び」だと気づき、挑戦するのでもいいなと思うようになりました。  
挑戦を1回でもしてみようと、もう一度やろうという勇氣が湧いてきます。失敗するのが怖くなくなるのです。そして、それは何よりも、失敗しても大丈夫だよ、と温かく見守ってくれた友達のおかげだと気づきました。  
小さい挑戦を積み重ねていけば、いつか大きな舞台に立つても怖くないと思います。  
だから、私は挑戦を続けます。

## みんなを守る交通安全リーダー



桑村小学校 6年  
さいとう このか 齋藤 桔花さん

総合学習の時間に「交通安全」について学習し、小学生は学校に慣れ始めた7歳頃の事故が一番多いこと、登下校中は横断歩道を、それ以外の時は横断歩道ではない場所を横断している時の事故が多いことなどを学びました。また、普段の登下校の様子を思い出し、安全に対する意識についても振り返りました。  
それらをまとめて「交通安全リーダーと語る会」で発表し、警察の方、地域の方、保護者の方と話し合い、考えを深めました。

私自身にも、交通事故の経験があります。  
幼稚園の時、私は道路の反対側にいる両親のところへ行こうとして車にはねられました。他のことに気を取られながらの横断は、総合学習で学んだ事故の起きやすい条件と一致します。このような経験もあり、また、学び話し合う中で、私の気持ちは「自分の身を守る交通安全」から「みんなを守る交通安全」へ変わっていききました。  
6年生になり、一人一人に「みんなを守る交通安全リーダー」のワッペンが配られました。これは「交通安全に気をつけましょう」という意味ではなく、「リーダーとしてみんなを守っていきましょう」という意味です。ランドセルのワッペンを見ながら、私は毎日登下校しています。

## 自分の普通



東小学校 6年  
いわざき みお 岩寄 滯さん

皆さんは、自分のことを「普通」だと思つていますか。私たちの周りには「普通」があふれています。私自身も色々な場面で使います。しかし、春休みにオーストラリアにホームステイした際、私が「普通」だと思つていることが、「普通」ではないと分かる出来事がありました。それは、生活用水に対する考え方の違いでした。日本では毎日洗濯をして、浴槽にたっぷり湯を張つてお風呂に入るのが「普通」ですが、雨の少ないオーストラリアでは、洗濯は週1回、シャワーは1回10分程度の「特別」なことだったので。両国の違いに驚いた私は「普通」とは何か考えるようになりました。

私は「普通」とは自分が自分に与えているルールだと思つています。そして、それは一人一人違うということも忘れてはいけません。自分にとって価値がないと思えることも、他の人には価値があるかもしれないのです。これから、国籍も文化も考え方も違う友達がたくさんできるはず。相手に対して「普通」ではないと感じることもあるかもしれません。色々な人、色々な国の「普通」を学び、交流を広げ、広い視野を持てるようになっていきたいと思います。

## 一人一人が安心してくらせる世の中に



西小学校 6年  
すんどう れい 駿藤 嶺さん

安心で、一人一人が生き生きと暮らせる町とは、どんな町だと思いますか。  
僕は、障害を持った人やお年寄りの使いやすい設備が整い、誰もが外に出るのが楽しいと思える、福祉の充実した町だと思います。  
僕の将来の夢は、福祉の充実を図る福祉用具専門相談員になることです。

この仕事に就きたいと思つたのは、時々車いすを使つている祖父が、色々な道具を借りていたことがきっかけでした。祖父は車いすや手すりなどの道具を借りることで、自分で出来るが増えました。祖父のために必要な道具を持つてきてくれる相談員の人は、祖父の安心を守るヒーローのように思えて、かつこよく感じたのです。  
日本は高齢化が進み、介護を必要としている人が増加していますが、介護する人は不足しています。だから、僕は介護をする人が少なくても不安なく生活できるようにサポートするこの仕事に就いて、僕の住んでいる函南町が、福祉の町となるよう活躍したいです。  
今の僕にできることは、町で困っている人をみかけたら手伝うことだと思います。その人のニーズに合わせることを大事にして、自分にできることをやっていきたいです。